

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501076		
法人名	医療法人愛全会		
事業所名	グループホームこがね虫の家		
所在地	〒005-0811 北海道札幌市南区川沿1 1条2丁目4番7号 (電話) 011-578-5064		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】 (平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 11月 9日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	16,000~24,000 円
敷金	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)		
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1ヶ月当たり		43,000 円

(4) 利用者の概要(12月17日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	76歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛全会愛全病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、同法人の各事業所の中でも、早い時期に設立されており、平成21年10周年を迎えようとしている。母体法人である愛全病院の強い支援の下、医療連携体制が整備されており、利用者の健康管理は徹底している。また、医療、介護、生活全般の様々な研修を法人内で実施しており、研鑽を積んだ職員が多いことも、利用者、家族に安心感をもたらしている。事業所は、地域との繋がりを大切にしながら積極的なアプローチを試みており、事業所への理解に繋げている。更に、ボランティアによる支援も多数受け入れ、そのひとつとしての手芸教室には、利用者のみならず複数の家族も楽しみに参加しており、家族の訪問機会の増加にも繋がっている。事業所は、家族と共に利用者を支えるような支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった同業者との交流及び災害対策については、改善計画シートを利用し、目標をたてて、改善に向け取り組み中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、自己のケアの振り返りの機会として活用している。また、外部評価は、第三者の目線による事業所の取り組み状況の確認の機会として活用しており、ケアの質の向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目③	運営推進会議は、家族代表、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加し、概ね2ヶ月に1度開催している。会議では、事業所の運営状況、行事、利用者の生活状況を説明し、事業所への理解浸透を図るとともに、外部評価の結果も報告しており、会議での意見や情報を活かして積極的に運営に反映するよう努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目④	日常的に事業所を訪問する家族も多く、日ごろから意見や相談事が言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、外部の相談窓口及び苦情解決の流れを提示しており、意見を活かす取り組みや改善を試みている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には法人として入会している。町内会の行事には、利用者の状況を見ながら共に参加している。なお、事業所への理解促進のために、職員が率先して旅行会等の地域行事に参加しており、地域との馴染みの関係が進みつつある。また、事業所の行事案内を町内会に回覧するとともに、認知症の勉強会を事業所内で開催するなど、積極的に連携に努めており、事業所への理解が広がっている。更に、近隣住民から野菜をもらうなど、近所付き合いも深まりつつある。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から「明るく・元気に・楽しく」をモットーに、「地域に見守られ、穏やかに100歳へ」という理念を掲げ、ケアに反映するよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス時に、職員全体で話し合い、ケアに活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には法人として入会し、職員は積極的に地域へ出向いて交流を図るよう努めており、町内会の旅行やコンサートにも参加している。また、事業所内での認知症講座の開催等を通して、地域からの理解が進みつつある。ボランティアによる大正琴演奏会、手芸教室も行うなど、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、日常の流れでは気づかないケアの振り返りとして活用するよう話し合っている。外部評価は、第三者の目線の大切さを認識しながら、事業所全体における気づきの機会として活かしており、改善計画シートを作成して目標を定め、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者家族や民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員等が参加し、概ね2ヶ月に1度開催しており、事業所の運営状況、利用者の生活状況を説明している。また、事業所の行事案内を地域に回覧してもらったり、地域から行事の案内を受け、意見や情報の共有の場として利用するなど、サービスに活かすよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは、母体法人として関わることが多いが、事業所は市や区の管理者会議等に参加し連携を図っている。また、エリアマネージャーが実践者研修の講師を務めており、地域包括支援センターとは日常的に連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常的に事業所を訪問する家族も多く、訪問時には利用者の状況を報告している。また、利用者の状況に変化のある時は家族に電話で報告するとともに、毎月のたよりで暮らしぶりや予定、時には食事のメニュー表も紹介している。さらに、外部評価の結果も各家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議では、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに心がけるとともに、訪問できない家族には、手紙等で意見を聴くよう努めている。また、事業所内の苦情対応窓口と対応手順を提示しているとともに、外部の苦情受付窓口も契約書に記載し家族に伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内の異動が主であるが、事業所開設当初から勤めている職員もおり、職員の異動による利用者の混乱は少ない。新しい職員に対して利用者は、自宅への訪問者のように自然に受け入れている。職員は少しずつ関わりながら利用者のダメージを防ぐよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内で5つの委員会を設けており、運営方針、教育方針を決め、法人全体でサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。内部研修を毎月行い、職員は勤務状況にあわせて参加し、研修報告も行っている。運営者は、外部研修への参加も職員に積極的に勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市や区の管理者会議に参加し、同業者と交流を図っているが、職員が同法人以外の事業所と交流する機会は少ない。	○	現在、同業者間のネットワークづくりを始めており、他の事業所とも相互訪問に向け検討中である。今後は、事業所同士、職員同士の交流を深めながら、共にサービスの質の向上に取り組むことが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族との面接を行い、家族の要望を聴きながら話し合いを行っている。利用者が安心感を持ち、事業所に馴染めるよう、家族と連絡を取りながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、職員は利用者から人生の先輩として生活の知恵や料理のアドバイス等を教わることが多い。また、職員は教わる姿勢を心がけて工夫しており、共に生活する関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者本人との日々の関わりの中で、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。利用者の態度や表情等から思いを推し量って確認したり、意思の疎通が困難な利用者に対しては、家族からの聞き取りにも努め、その人らしい暮らしとなるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、日々の関わりの中から利用者の身体状況を的確に把握した上で、利用者本人や家族の希望を聴きながら、介護計画に反映させるよう努めている。また、カンファレンス時に職員間で話し合い、意見を取り入れて、個別の介護計画を作成している。	○	今後は、介護計画をより具体的に分かりやすく記載することによって、利用者の現況に沿った計画内容が一層明確になり、本人や家族にも理解しやすくなることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や利用者本人の要望を取り入れ、定期的に介護評価を行い、介護計画を見直している。また、ケア記録や生活日誌から、利用者の状態変化を把握し、必要に応じて随時介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院やその他の外出希望に応じて、車両と運転手を用意したり、職員が付き添うなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診記録や検査結果は、利用者一人ひとりファイリングしており、職員が情報を共有できる体制を取っている。母体の医療法人が協力医療機関であり、訪問診療も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成しており、利用開始時には利用者や家族に提示し説明している。利用者の身体状況や病状が変化した場合、家族と共に職員も同席してかかりつけ医の説明を聞いた上で、本人や家族の意向や希望に沿った支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、「利用者は人生の先輩であること」を念頭に置きながら、利用者一人ひとりのプライドに配慮した言葉かけや対応を心がけている。また、各居室にトイレがあり、プライバシーが保たれている。個人情報や書類等は事務室内の所定の場所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせており、利用者は思い思いに過ごしている。合唱や体操に参加したり、会話やテレビを観て過ごしたり、家族と居室で過ごすなど、利用者が希望に沿って自由に過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの役割があり、野菜を切ったり、パンを焼いたり、配膳をするなど、それぞれの力に合わせて食事の準備や後片付けを行っている。また、食事中も利用者の会話には笑いが多く、楽しみながら食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って、いつでも入浴できるように支援している。また、楽しんで入浴できるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴から得意なことを把握しながら、それぞれの役割を支援している。男性利用者も調理や食事の準備に関わり、張り合いとなっている。地域の演奏会や行事に参加したり、ボランティアによる大正琴の演奏を同法人の他事業所の利用者と一緒に楽しんだり、手芸教室で家族と共に作品を作るなど、日々変化に富んだ楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望に沿って、散歩をかね近隣のスーパーまで買物に出かけたり、同法人の他事業所にいる友人を訪問するなど、日常的に外出する機会をつくり、個別的な支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は住宅街の中にあり、夜間は玄関を施錠している。日中は極力鍵をかけずに、チャイムにより出入り確認を行っている。希望により居室を施錠できる体制も可能である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て防災訓練を行っている。今年度は、夜間を想定した訓練も実施している。しかし、地域との協力関係を整備するまでには至っていない。	○	災害時においては、地域住民の協力が不可欠である。特に職員の手薄となる夜間の災害時については、全利用者の安全確保を図るために、地域住民との協力体制を構築することが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士の献立に基づき、食材の種類も多く、バランスの良いメニューとなっている。また、利用者一人ひとりの食事の摂取量や水分量も記録しており、それぞれの必要量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、食堂兼用の居間は、全体的にゆったりとした空間となっており、車椅子でも不自由なく過ごせる。季節にあわせ、窓や壁に装飾を施しており、事業所全体が華やかな雰囲気となっている。廊下や2階のフリースペースにも長椅子を置くなど、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、トイレ、押入れを備え付けており、プライバシーを確保している。また、使い慣れたテレビや家具、調度品を置き、利用者一人ひとりにあわせた、個性的な居室づくりをしており、安心して過ごせる空間となっている。		

※  は、重点項目。